多武峯往生院歌合　正月庚申夜

題

家梅始開　池氷一倍殘

歌人

一番　家梅始開

左　美作

みちゆきの人もとゝめすめつらしく梅さきにける宿のかきね

右　伊勢

我宿にはやく梅の花咲そめて宿のあるしも山さとはさせ　ありの

二番

左　　宣旨

春ありとしらひも有るかひらしき家花をみて梅さへさくよなり

右　　出羽

はるきぬと告るやとにはまつ梅のさくか諸人のまちえたるかな

三番

左　　武蔵

家富に計あかぬる梅花にほへる春を数もしられぬ

右　　左門

あはれある風の吹にひとつまたさくにも梅の花咲けるなり

四番

左　　讃岐

朶は笑みて一枝の梅も咲よりも利益字にありさて柳もかな

右　　式部

梅花は咲て初めの頃は家富に鶯の声をきかまし

五番

左　　左門

初のは千歳を重ねるよりわか宿に梅の咲ひら音も聞ゆ

右　　小馬

梅の花家に匂ふさくらの色も名高き梢をのこさむかしえんつくよ

六番　　池氷一倍殘

左　　讃岐

春風やゝうちとけて嫁ぢ今ぞとけゆくかの池よの末行り

右　　出羽

鳥かなき春風のみそこゆるなちよ之残る池の氷を

七番

左　　英作

きゝし池よりとく残れる氷あさきしまをもてまつにいはけなりけり

右　　武藏

うすき氷のまちすくなくて風よりかいたる氷のみそまゝなりけり

八番

左　　中務

春風やぬるく吹らん菰池氷のみきはに氷とけての白浪

右　　左門

かはそひの柳みとりを染めかくるとけてや池の水のみとりは

九番

左　　宣旨

あら風にふきかへりゆく池の氷うちとけみそのはるにふきてすみける

右　　式ア

はる風の吹そめしよりみはいつしか池の氷のとけくるあした

十番

左　　良經

春さえみ霞も隔てまちかねと池の氷をとくるなりけり

右　　小馬

おち風よふけてまつし菖蒲の池のみなかみ
あやかるるしく

右多武峯往生院歌合以猪苗代謙庭本書寫一校了

西國受領歌合

題

盧橘　五葉　薔薇　眞薦

田子　照射　神祭　敷遣火

釣船　塩竈

歌人

判者

西國の受領乃館にて四月はつかの比庚申し
けるによもすから名ところをさくりてあはせける歌